

刊夕日二廿月三



追善法要の由來と心得 (二)

眞繼雲山

【問】亡者が追善供養によつて利益を受けたといふ何か現の證據がございませうか

【答】遺族の追善供養によつて、地獄に墜つべき亡者も天道に昇り極樂に生れるのでありまして、亡者の死後七日々の法要は畢竟その趣旨に外なりません。これが現の證據としての物語りは和漢にその數甚だ多いこととありますが、今は一々述べるの煩を省略いたします。

【問】追福のために亡者が昇天するといふ證據の文が經典にございませうか。

【答】梵網經には『若し父母兄弟死亡の日に、應に法師を招きて菩薩戒を講じ、追福してその亡者を資くれば人天に生ずることを得べし』とあり、これと大同小異の文意は經典の隨所に幾らでも拜讀することが出来ます。

【問】お説によりますれば追善法要は亡者のために修するのですか、それとも遺族のために修むのでありますか。

【答】餘教は措いて問はず我が佛教にあつては本來不

生不滅、乃至は諸法實相と説きますので願界の衆生も幽界の先亡も齊しく救はれるの法門でありますから、亡者の追福が亡者へのためであると同時にその行事がそのまゝ、現生遺族の功德となるのでありまして、幽明ともに同時に惡道の苦患を免るゝのであります。

【問】段々の御教示により大體の意味は諒解することを得ました、就きましては死者のために年忌追善を営み始めた由來を御伺ひ致します、何時の頃より起つた行事でありますか。

【答】印度にては波斯匿王がその父王のためにその忌日に釋尊および佛弟子を招待して齋を設けて供養したといふことが大佛頂經にあります。また孟蘭盆の緣起となつてゐる目蓮尊者が佛および衆僧を供養して亡き母の菩提を弔はれたといふことも印度における追善法要の始めであつたと見ることが出来ます。

【問】中言にて恐れ入りませが波斯匿王が設けしといふ「齋」とはどういふ意味でありますか。

【答】齋とは齊へるといふ字でありまして、齋經には

「我れ今日、齋して敢へて惡をなさず」とあります。つまり元は身と口と心との三つを齋へて悪いことをしないとの意味であつたのですが、その中でも食うことばかり考へてゐるやうでは健康を害し修行の妨げとなる、食事こそ最も大切であるといふので、齋の字を後には食事にうつし佛法の戒に順ふて正しく食事をすることを齋といふやうになつたのであります。

定価一冊五圓
送料別
發行所 東京市神田區
電話 六三〇〇番
印刷所 東京市神田區
電話 六三〇〇番

「我れ今日、齋して敢へて惡をなさず」とあります。つまり元は身と口と心との三つを齋へて悪いことをしないとの意味であつたのですが、その中でも食うことばかり考へてゐるやうでは健康を害し修行の妨げとなる、食事こそ最も大切であるといふので、齋の字を後には食事にうつし佛法の戒に順ふて正しく食事をすることを齋といふやうになつたのであります。

【問】よく分りました。引きつゞき前段の法要の由來につき御説き下されい。

【答】孟蘭盆會は最も文献に明らかな追善法要の一つであります。支那にあつては梁の武帝の大同四年に帝みづから同泰寺に幸して孟蘭盆齋を設けたとありますから既に六朝時代より存在してゐたことが知られます。本朝にあつては推古天皇の十四年に毎年四月八日七月十五日に齋を設くるの制を立て齊明天皇の三年七月十五日には須彌山の形を飛鳥寺の西につくりて孟蘭盆會を設けられしを起原といたします。

外科 X 光線科
外性病科
科科
意隨院入

平町 田町
安齊外科醫院
電話 四七五番

旭硝子株式會社製品
赤菱印
板ガラス
●菓子 壘
●硝子 食器
●其他 各種

松崎硝子製作所
平町新川町(電話一四二番)
支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

新車御披露
三十四年式「テラツクス、セダン」人車
致しました。貸切の御用の節は是非御
試乗を御願ひ致します。

最新型セメン揃ました
電話六四〇番
尼子タクシ-

感じの良い!
客に親切な……

藥種賣藥、工業藥品
衛生材料、各種染料
化粧品、其他

阿部藥舖
平・田町(松月堂)

募集廣告

店員 徒弟
資 格 (年齢一拾三四才より拾六才位迄) (學歷一尋常科卒業又は以上の事) 優待方法(家族制度の外特別優待方法あり)

◇徒弟 拾名

◎家具職として合理的製作方法を望む人
資 格 (年齢一拾三四才より拾六才位迄) (學歷一尋常科卒業又は以上の事) 修業後の収入一ヶ月金五拾圓以上百圓位

◎御希望者は至急御面談又は御問合せを乞ふ

營業所 平町三丁目 電話三五九番
製作所 平町新田前 電話一八二番

ゼアラの自轉車 代理店
宮田自轉車

平局御用 **エビスヤ自轉車店**
平町 電話六六四番

宮田自轉車九率度郵便局納の五千二百輛

吸入用酸素純度 99%

モノサシ 体温計
マカス 寒暖計
ハカリ

秤ノ取緒・垂糸。修繕致シマス

關内藥局
電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

夫婦揃って

毎月一回集合し

農家経済立直しの相談

神谷村大字上片寄では農村更生策の達成は農村婦人の奮起に俟たねばならないといふわけで夫婦會を設立して毎月一回宛同字の夫婦者一同が座談會を開いて農村民の向上に就て互ひに意見を交換してゐるが今二十一日午前十時から同字實行組合長宅に開かれる座談會には郡農會柴田技手を中心となつて話題と意見の進めると

清酒人賞者

品評會審査決定

石城郡酒造組合主催第十五回清酒品評會は十八日から三日間平稅務署に開催出品七十餘点に達し審査の結果左の如く入賞決定二十日午後三時から褒状授與式を行つた

- △特別名譽賞「小錦」高久村和泉屋本店 △名譽賞「白雪乃雪」平窪村松本徳一 △優等「小錦」高久村和泉屋本店外十五点 △特選「福美」内郷村四家又一外二十点

本多公の

事蹟を景仰

講演會を開く
泉村有志は舊泉藩主本多忠壽公が心學の研究に深き貢獻し領内に善教會なる場

寄留兒童

内郷で激増

内郷村では最近炭界好轉の爲め労働者が激増した結果來る四日の新學期から入學する學齡兒童寄留屈理在百

十四名に達し村當局は轉手古舞して居ると

壯丁の虎眼が

昨年より多い

平町では去る十五日今年度壯丁百七名のトラホーム検査了へ欠席壯丁十餘名も夫々醫師の診断書を提出してきたがその内トラホーム罹患者は輕症二十名、中症四名、合計二十四名で二割二分の罹患率を示してゐるが昨年度の壯丁百七十三名中十九名に比較すると患者數に於て五名の増加率に於ては丁度倍率となつてゐる

勿來町章

一般から募集

勿來町では今回同町マークを制定することになりその意匠を懸賞付で廣く一般から募集してゐるが一等當選者には五圓の賞金を贈呈すると

磐女轉校試験

磐女

への轉校試験は來る卅日同校で行はれるが目下の受験者は二年八名、三年四名、四年一名、計十三名である

磐中職員會議

磐中では明日學期終了式舉行後職員會を開き教授訓練校務一般に關し新學年度より改正すべき事項に於いて協議すると

平町出納検査

平町では來る二十八日午後一時から臨時出納検査を行ふ

平商編入試験

平商業學校の第二、第三學年編入試験は來る廿七日行はれるが志願者は目下の處二年二名、三年三名、計五名で試験科目は左の如くである
(二年)國語、算術、代數、英語、珠算(三年)國漢、代數、英語、珠算

湯本職業教育

湯本小學校は今回日本職業指導協會より兒童の職業指導委託校に指定され九年度より五十圓の補助費を支給される事になつた

郡南統計講習

石城郡南二町八ヶ村の統計講習會は二十日午前九時から植田小學校に開催出席九十餘名吉田縣統計課長臨席講演した

愛林普及講演

平營林署では來月二、三日日愛林思想普及宣傳デーの催し物として永戸、箕輪組合村

に於いて縣山林課の熊本主事を招き愛林思想普及の講演會を催すと

平町人事

- △白野町一五 平田實氏三女良子
- △胡摩澤一〇〇 猪狩忠吉氏五氏マキ
- △大町二七渡邊靜江
- △古鍛冶町七遠藤彦助

美味！

芳醇！

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

一冊の代金で御希望通りな

五冊の雑誌が自由に讀める

川崎巡回文庫

電話六三〇番

耳鼻咽喉專門

平町田町七〇番地
入院應需
山内醫院
醫學士 山内亨吉
電話六九一

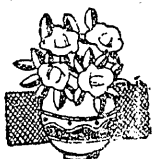
生徒募集

非常時日本と婦人の職業
近代の日本は婦人にも經濟の獨立を呼かけて参りました。婦人の職業として産婆看護婦といふ業は最も似つかはしい天職であります。
卒業年限僅か一年
開業すれば収益も多大で家政の内助ともなり、家庭の人となつても直接役に立つのは此の産婆看護婦の業であります。
戦争と日本婦人としての覺悟
一旦緩急あれば戦時看護婦として愛する母國への奉仕に務めませう。
古い傳統の歴史と縣下第一の好成绩を誇る平町一丁目石城産科婦看護婦學校へ御入學下さい。

石城産科婦看護婦學校

校長 鷹崎千代
電話三五七番

美しい花の種子



毎度御好評をいただいて居ます
横濱植木會社の輸出特撰種子です「草花種子の蒔き方」差します

西村屋藥房種子部
平 2 電 3

吉田眼科病院

眼科専門
院長 吉田安雄
醫學士 吉田久雄
平窪屋町電話六八番

レコードの快調に

狂舞中を「御用ツ」

「さくら音頭」に惑溺した

十九の少年を罪に走らす

いま嵐の如く全国的流行をみてゐる「さくら音頭」が十九の少年に罪を犯させた話。好間村大字上好間鈴木幸平(一)假名は最近カフェーといふカフェー。蓄音機屋といふ蓄音機の擴声器から響き流れてくる「さくら音頭」の陽気なメロデーに刺戟されて「さくら音頭」狂となり毎夜カフェーに入りびたりで「さくら音頭」を踊つてゐる所を平署員に御用!!

久邇宮御乗艦の

軍艦木曾來る

海軍點呼のため

例年の如く便乗を許す

本縣下の本年度海軍簡閱点呼は五月二十五日軍艦木曾が小名濱に廻航し艦上に於いて行はれる事になつたが例年の如く一般の軍艦見學及び在郷軍人、町村吏員、教員、新聞記者等の宮城女川港までの便乗を許す筈である、尙ほ木曾には砲術長として久邇宮朝融王殿下が御乗艦中である

徳永博士來郡 四倉町鶏鳴會では來る廿六日午

治、佐藤善平其他に放火した事發覺平署に檢舉された

平農事 平町で座談會 は來月三日午後一時から町役場會

元の組頭さんが

婆さんを集めて

賭博に耽り檢舉さる

二十一日後一時頃永戸村合津倉吉方に於て同村合津保見(六)松崎な(六)外一名の爺さん婆さん達が現金賭け花札賭博開帳中を密行中の平署員に檢舉され目下取調べ中であるが保見は元永戸消防組の組頭の地位にあつたが現在は同組顧問の名譽職にあるだけに同村民からその不謹慎な行爲を指彈されてゐる

面白半分

宮で捕る

放火

内郷村大字宮字金坂居住伊達郡生れ佐藤久(三)は面白半分に行く廿日同字矢内宮

明日の天気

今晩も明日も北西の風晴曇半す

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- 後六、二五 講演 仙臺放
- 後六、三五 講演 佐藤吾一
- 後七、三〇 謡曲 日本
- 後八、一〇 管絃樂 日本

信榮の卒業式 平町

材木町平信榮幼稚園では廿三日午前九時半より第十回保育證書授與式を舉行するが本年度卒業生は左記十八名である

- 關内陽子 金田タマ子
- 木澤貞子 藤居美津子
- 山崎慶一 石山梅 市原
- 亮三 石川慶一 稻川幸
- 一新妻和男 水野昭之
- 五十嵐昭平 青沼健雄
- 常盤吉俊 井坂幸子 長
- 谷川純子 根本英司 谷
- 島浩治

喜稱名成佛決義三(義抄(第六講)駒澤大學 長文學博士 忽滑谷快天 前九、一〇 料理献立 黄味豆腐薄あんかけ阿部や

- 前二、〇〇 彼岸會法要(第六日)導師門跡藤林密
- 後〇、〇五 物語 生駒雷
- 後二、〇〇 婦人講座 山脇房子
- 後五、三九 法律講座(第十五講)東北帝大教授法學博士 中川善之助
- 四年 三六 一二 六九
- 五年 三〇 一二 七〇
- 六年 三三 一五 六四
- 高一 四二 九 三四
- 高二 四八 一五 六一

平職業紹介所報告

△大工職 二十才—三十才 位迄 尋卒 日給七十錢 一圓

△自動車助手 十五—十七才 高卒 仕着小使

△女中 二十才位 尋卒 給料面談

△商店雜役 十七、八—二十才 尋卒 初級五圓

△回職を求める方

△新聞配達 二十五才 尋卒

△雜役夫 五十四才 尋四半途

△事務員 二十六才 高卒

△小使 二十六才 高卒

久之濱へけふ百圓

青沼町長が持參贈呈

既報平町長青沼錫太郎氏は本日激浪に襲はれて渡幣の極にある久之濱に對する見舞金百圓を持參し同役場を訪れ贈呈した

平第二校

受賞者數

既報來る廿四日終了式を行

學年	優等	進歩	精勤
一年	三二	一一	四九
二年	三六	一一	七二
三年	三二	一一	七五

鈴木部長

五段に昇格

平署巡警部長鈴木忠正氏は此程剣道五段に昇格今二十日大日本武徳會から免狀を授與された

裁判所たより

△既報湯本町字笠井一九渡邊幸七郎方裏庭の軍鶏賭博犯同町島崎三五郎、大高八百吉、鈴木太平、箱崎義一郎等四名の公判のうち島崎は病氣の爲め延期されたが三名は本日午後一時より平區裁判所法廷に中島裁判長

科人婦。科外 院醫坂井

町田町平 番九五五話電



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

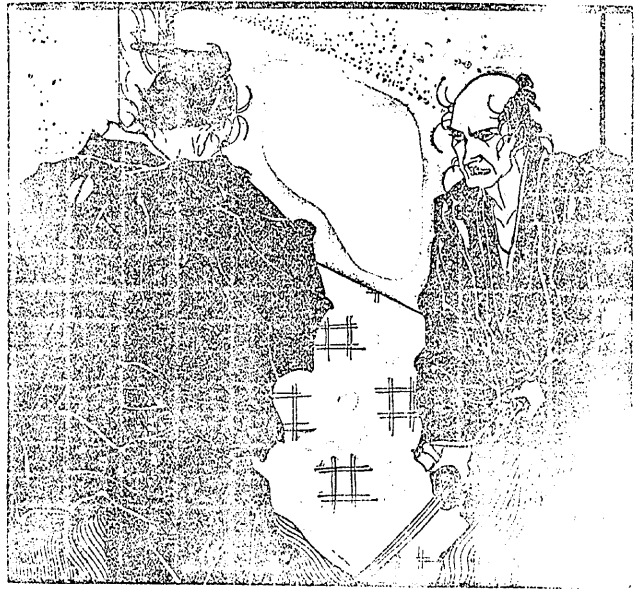
第百八十六回

德川家に崇る村正

五太夫も一目散

水上五太夫は白旗丈助に由松を殺害することを頼んだ跡で、又考へ直して後悔をした、何で俺はあの様なことを人に頼んだのだらう度々これまで人を手に掛けて来たのだ、今更一人や二人の者を自分の手に掛けることを厭つたところで仕様がなない筈だ、この頃の俺は餘程どうがしてゐる年の故かも知らんが氣が弱くなつた殺した奴の提督を吊つたところ、何の功もあるまいと信じながら矢張り佛壇の前へ行つて手を合はす、而し神佛に向つて手を合はすのは昨日今日の事ではない、兩親に死別れ、兄弟もなく只一人になつた當時は神や佛に拜みを上げるのが一つの仕事の様になつてゐた、それがいつとなく氣が荒んで来て多くの人を手に掛け罪科を重ねて来たのだ、そ

うだ、それはたしかこの無銘の銘刀を手に入れた當時からだ、俺のこの刀で何人斬つたらう連れ添ふ女房の親父まで手に掛けたのはこの刀だ、考へれば恐ろしくもなるが、併しこうし引抜いて見れば、目ざし



伴由松も、矢張りこの刀で斬つてやるのが、本當だらう、白旗なんぞに頼んで無駄な金を使はずとも、久しぶりでこの刀の斬れ味を試みればよかつたのだ、それにあの小僧、仲々の腕前に

やしないかと思ふから様子を見に来たら果して白旗がドデを踏んでしまつた、エ、ツ、面倒だ、二人共やつてしまへ、そう考へた水上五太夫ギラリ村正の一刀を引抜いてバツと前へおどり出した、

いふが、白旗、本多等も三本一本は打ち込まれるといふから丈助がまさかにもやられる氣支へはないにしても取逃すかも知れん、これは斯うしては居られぬ、俺は二番手に行つて見ようと五太夫手早く支度をする道場をとび出し白旗の跡からつけて行く、然し前回申上げた通り白旗丈助と由松の斬合、由松が助けを呼ぶ丈助が手間とつてゐるから助太刀に出ようと思つてゐる中に仲間を供に連れられた武士がとび込んで来て白旗丈助は投げられて逃げ出した始末だ、こんなことになり

仲「何か出た」
と仲間が大きな聲を出したので由松と彼の武士が振り返つて見ると、最前の黒装束とは亦違つた奴が彼の立派な武士を目標けて向つて来た、ヒラリ體を變じたがその太刀風で早くも最前の曲者よりも腕前優れた者と見てとつたがギラリ一刀を引抜いて身構へた、由松も恩人に怪我をさせても申譯がないと思つたから健氣にも一刀を取つて水上に立ち向つた、水上も由松を斬らうと思ふが彼の武士の腕前が優れてゐるので、うつかりすると自分がやられるから武士の太刀先を受けるばかりで仲々斬り込むだけの餘餘がない、暫く打合つてゐたがもうとも駄目だと思つたか、バツと二間とび退つて置いて踵を返すとその儘ドン／＼逃げ出した、由松がその後を追ふとするのを彼の武士は押し止めて

者も取逃しはしなかつたのに、併しもうおそい、次第に依つてはこの先拙者が力になつて必ず仇討ちをさせてやるからなげくな
由「有難う存じます、何分よろしくお願ひ申します」
○「これ、平助、貴様がそれに居りながら何故取逃した」
平「へい、旦那様それどころではございません、抜きました」
○「何が抜けた」
平「腰が抜けました」
○「たわけ奴口先ばかりが達者でいくぢのない奴だ」

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平町南町 電話一七〇番

小店員數名募集
年齢十五才ヨリ
優遇
御希望ノ方ハ午後一時ヨリ本人御來談下さい
平町田町一七
レストランサロン
電話三五二番

ランドセル
手提カバン

◇小學生用靴各種◇

皮ランドセル	型大	¥ 75
皮ランドセル	型極大	¥ 90
牛皮特選	型大	¥ 3.00

ツルヤ
平・四 電一四〇

魂の這入つた!
自轉車とリヤカー
フタバ式リヤカー發賣
フタバ商會
元 平新川町月見橋際

石炭
コークス
炭
平 驛 前

◎ **阿部石炭商店**
電話三七番

専門 **内科一般**
宅診 二 内科は何でも診療致します
往診 二 呼吸器病ばかりではありません
平町南町六五

川井内科診療所
電話一八一番
醫學士 川井重之
女醫 川井安子